

## 2. ベトナム北部地域における健康診断普及プロジェクト

株式会社メディヴァ

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナムでは疾病構造が感染症から非感染症（生活習慣病やがん）に移行しつつあり、病気の早期発見・疾病予防が課題となっている。加えて同国では、被雇用者に対する定期健康診断が法定され、健康診断が普及する素地ができつつある。

以上の現状を踏まえ、弊社は 2016 年にバックマイ病院と覚書を締結し、以下の点につき協力することで合意した。

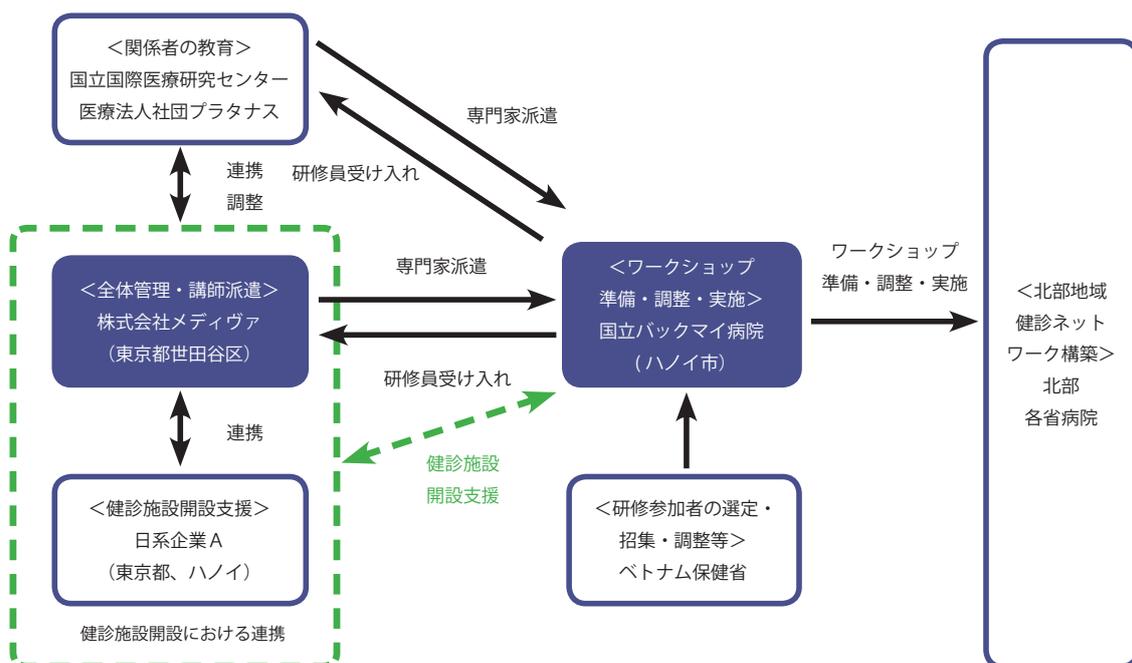
- ・ バックマイ病院新外来棟において日本式健診センターを開業すること。
- ・ 将来的には、同健診センターがベトナム北部の基幹病院として他施設と
- ・ ネットワークを構築し、健康診断および医療技術普及の拠点となること。

### 【事業の目的】

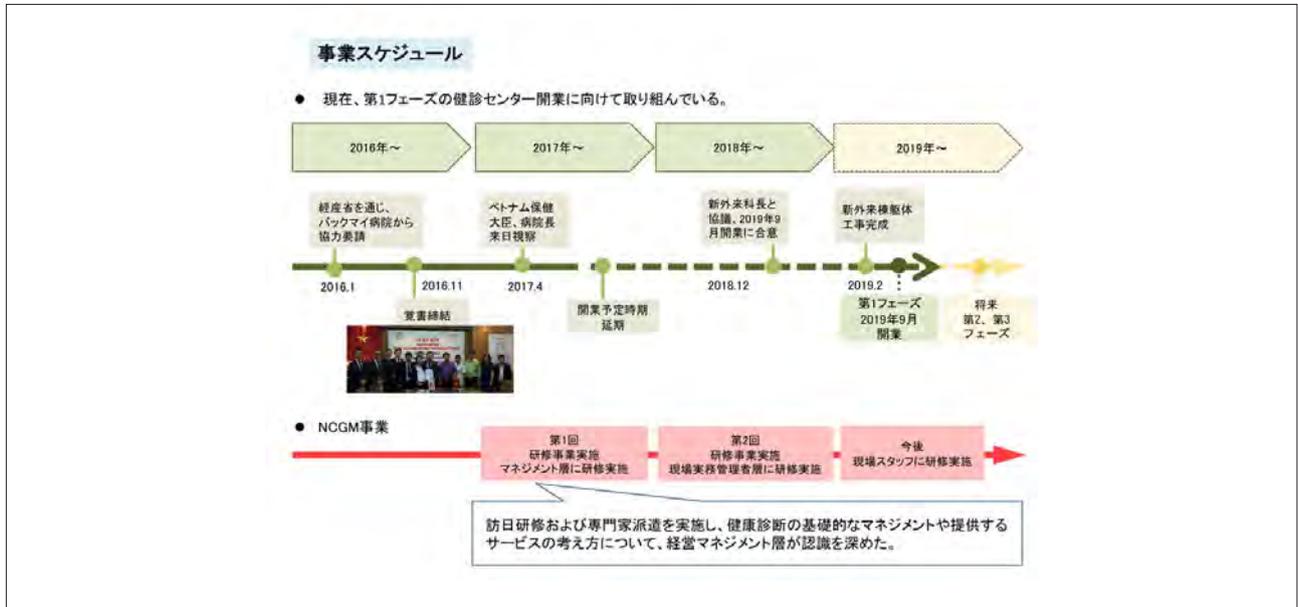
- ・ 平成 29 年度に実施した事業に続き、バックマイ病院での健康診断実施における医療技術の向上を目指す。
- ・ 同院に新設する健診施設の質を向上させ、ベトナム北部地域における健診事業のネットワーキングに貢献する。

### 【研修目標】

- ・ バックマイ病院外来科の現場リーダーおよび現場スタッフが健康診断の意義を理解する。
- ・ バックマイ病院の医療現場におけるサービス提供状況や各職種の役割分担などを把握する。
- ・ 日本の健診センターとバックマイ病院での運営方法の相違について相互理解を深める。
- ・ 健診センター運営上の課題になりうる項目を洗い出し、解決に向けて議論をする。



株式会社メディヴァです。よろしくお願いいたします。弊社は今年度、ベトナム北部地域における健康診断普及プロジェクトを実施しました。この背景としましては、弊社が2016年にバックマイ病院と締結した覚書があります。ベトナムでは疾病構造が感染症から非感染症に移行しつつあり、早期発見と予防が課題となっております。加えて、ベトナムでは従業員の定期的な健康診断が法律によって定められていることから、これから健康診断が普及していく素地ができています。これらの現状を踏まえて、弊社は次の2点において、バックマイ病院の協力要請を受けて、事業を実施しました。昨年度も医療技術等国際展開推進事業に採択していただきまして、今年度も引き続きバックマイ病院での健康診断における医療技術の向上を目指して活動しました。



ベトナムでのプロジェクトは、3つのフェーズに分けて実施しております。現在は第1フェーズの健診センター開業に向けて取り組んでいます。元々は2016年に経済産業省を通じてバックマイ病院から協力要請をいただきまして、昨年4月にはベトナムの保健大臣とバックマイ病院の院長が来日しました。事業としては、まず、バックマイ病院のマネジメント層に日本式健診の基礎について理解していただきました。今年度は、その一段下の職員に落とし込むために現場の実務管理者層、現場リーダーに向けた研修を行いました。今後の見通しですが、今年9月に健診センターが開業予定ですので、それに先立って現場スタッフの研修を行う予定です。

実施体制ですが、弊社の関連機関である医療法人社団プラタナスは、女性専用の健診施設を3つ持っております。また、NCGM人間ドックセンター長の井上先生にもご協力いただいています。バックマイ病院のネットワークを活用してベトナム北部全域に予防医療を普及していくことを目指しています。今年度の研修目標は、バックマイ病院の現場リーダー層および現場スタッフが健康診断の意義を理解すること、バックマイ病院の各職種（医師、看護師、事務職）が役割分担や協力体制を理解すること、日本とベトナムの健診における違いを理解すること、そして今後の健診センターの運営にあたっての課題を洗い出し、解決に向けて議論することです。

**1年間の事業内容**

2018年	6月: 第1回 専門家派遣	9月: 第2回 専門家派遣	11月: 第1回 受入研修	12月: 第3回 専門家派遣	1月: 第2回 受入研修
日本人専門家の派遣 (人数、期間)	・ 3名 ・ 4日間	・ 6名 ・ 4日間		・ 4名 ・ 3日間	
海外研修生の受入 (人数、期間)			・ 4名 ・ 7日間		・ 3名 ・ 3日間
研修内容	受入準備・課題発見		内視鏡科・外来担当者向け研修		
	・ 第1回受入研修の内容検討 ・ 健診センター図面の検討	・ 内視鏡検査の見学 ・ 日本式健診センターの解説 (業務フローや外国人対応)	・ 安全で効率的な内視鏡検査のための取組み ・ 健診における接遇向上の取組み	・ 内視鏡検査向上アクションプランの実行状況を確認	・ 健診フローと人員配置の検討

1年間の事業内容です。ベトナム、ハノイへの専門家派遣3回と、東京での受け入れ研修2回を実施しました。6月と9月の専門家派遣は、課題発見と訪日研修の準備に充てております。それを元に、11月以降は内視鏡と外来科に特化した研修を行いました。

## 第1・2回専門家派遣(2018年6月・9月)

### 目的

1. 本年度NCGM事業の具体的な内容について協議、決定すること
2. 健診実施に向けて各検査のサービス提供状況を視察し課題を洗い出すこと

### 内容

- 日時** : 2018年6月6日～9日(4日間)  
2018年9月12日～15日(4日間)
- 参加者** : 【6月】  
メディヴァ コンサルタント3名  
【9月】  
NCGM人間ドックセンター 井上医師、呂医師、五十嵐看護師  
メディヴァ コンサルタント3名
- 研修内容** : ・今年度の研修内容の検討  
・健診センター図面の検討  
・バックマイ病院における内視鏡検査の見学  
・日本式健診センターの解説(業務フローや外国人対応)



### 成果

1. 本年度のNCGM事業としてバックマイ病院の要望により、受診者をスムーズに受入れる効率的なオペレーションを学ぶことに決定した。
2. 健診においてボトルネックとなる内視鏡検査を効率性・正確性・安全性を兼ね備えた形で実施するには、医師・看護師・事務職が協力し合う必要がある点につき、双方の認識が一致した。

研修内容の詳細です。6月と9月に実施した専門家派遣では、バックマイ病院で内視鏡検査の見学などを行いました。2回の専門家派遣において、バックマイ病院側と我々メディヴァが目指す研修目標を具体的に協議できたおかげで、この1年間の事業が非常に有意義なものになったと考えております。

健康診断においては内視鏡検査がボトルネックとなりますが、バックマイ病院からは技術よりもたくさんの受診者をスムーズに受け入れられるような効率的なオペレーションを学びたいという要望がありました。また、内視鏡検査を効率良く正確に、そして安全に実施するには、医師だけでなく看護師、事務職など他職種が連携する必要がある点についても合意できました。

## 第1回本邦受入研修(2018年11月)

### 目的

1. 健診センターに特化した内視鏡診療技術・マネジメントを学ぶこと
2. 受診者の受入フローと各職種スタッフの業務を理解すること

### 内容

- 日時** : 2018年11月4日～10日(7日間)
- 参加者** : 消化器科 科長 Nguyen Cong Long  
消化器科 看護部長 Nguyen Van Khanh  
外来科 医師 Thi Bao Ngoc  
外来科 看護師 Ly Thi Thuy

- 研修内容** : ①NCGM人間ドックセンターにおいて実習  
②イーク表参道において健診フロー見学  
③イーク丸の内において健診のための事務処理を見学  
④富士フィルムOpen Innovation Hubにおいて健診機器を見学



### 成果

1. バックマイ病院における内視鏡・外来科での課題とその背景、改善策について、現場目線で検討しアクションプランに落とし込んだ。
2. 内視鏡検査の改善に向けて、下記を目標とすることに合意した。  
①検査時間の計測と記録を意識づけることによって安全性・効率性の高い検査を実施すること。  
②看護師が患者の容態に目を配りながら検査全体をマネジメントすること。

こうした準備を経て、11月には1週間の本邦受け入れ研修を実施しました。バックマイ病院から4名、消化器科長の医師、看護部長、外来科の医師と看護師が参加しました。NCGM人間ドックセンターでの実習や、弊社のイーク表参道、イーク丸の内の見学などを行いました。スライドの写真は、NCGM人間ドックセンターでの裏動線の見学の様子です。

初日にバックマイ病院の消化器科と外来科における課題とその背景について3つ挙げてもらい、それに対して日本で学びたいことを具体的に考えてもらいました。それを踏まえて1週間過ごしてもらい、最終日には改善策についてアクションプランに落とし込み、いつまでにどんなことに取り組むのかを考えて、バックマイ病院に持ち帰ってもらいました。

改善策については複数の提案があったので、ここでは全てをご紹介できないのですが、特に内視鏡に関する改善については2点の方向性が挙げられていました。1点は、安全な検査を効率良く実施するには、検査にかかった時間とその間の患者の容体について医師や看護師がきちんと記録することを意識づけることが重要であるということです。もう1点は、看護師の役割として患者に目を配りながら検査全体をマネジメントすることを徹底していきたいという意見をいただきました。

## 第3回専門家派遣(2018年12月)

### 目的

1. 11月に作成したアクションプランの実行状況を確認すること
2. 11月本邦研修の成果について訪日者4名が成果発表すること
3. 競合となりうる病院を見学し、差別化ポイントを検討すること

### 内容および成果

**日時** : 2018年12月12日～15日(4日間)

**参加者** : 【日本側】  
NCGM人間ドックセンター 井上医師  
メディヴァ コンサルタント3名  
【ベトナム側】  
計16名(訪日者4名、バックマイ病院副院長、  
国際協力局長含む)

**研修内容** : ①バックマイ病院において訪日者4名による成果発表  
②消化器科医師・看護師とのアクションプラン実行状況の確認  
③競合病院の見学

バックマイ病院訪日者より成果発表



### 成果

1. 内視鏡検査について  
①検査前の患者確認チェックリストが作成された。  
②医療安全を確保するためには施術過程の記録が重要であるとの意識付けができた。
2. 健診業務について、主要スタッフに一連の流れを理解してもらい、外来科長を中心にマニュアル化を進める方向性で合意した。

12月の専門家派遣は、11月に策定したアクションプランの実行状況の確認と、訪日者4名による研修の成果発表を目的に行いました。先ほど申しました内視鏡検査の改善状況については、残念ながら実行率は約50%となっています。現状のバックマイ病院の消化器科では、1日に約400人もの患者を受け入れており、なかなかすぐに実行するのは難しいという結果が出ました。しかし、看護部長を中心に、検査中の看護師の役割などについてチェックシートの作成が進められていました。新しい健診センターでは内視鏡の計測記録をすべての職員に徹底したいということになりました。訪日研修の成果報告には10名以上のバックマイ病院の職員が同席し、情報が共有されました。この発表内容を踏まえて、外来科長を中心にマニュアル化を進めることになっています。

最後に1月の第2回本邦研修です。外来科長の医師、外来科の看護師、事務職の3名の方にお越しいただきまして、健診フローと人員配置についての検討を行いました。イーク表参道と亀田総合病院を訪問して、患者さんの動線とスタッフの動線の両方を見学することで効率的なオペレーションを学んでいただきました。

## 第2回本邦受入研修(2019年1月)

### 目的

1. 効率よくスムーズに健診を実施するための健診フローと人員配置を学ぶこと
2. バックマイ健診センターの業務フローおよび人員配置を検討すること

### 内容および成果

**日時** : 2019年1月17日～19日(3日間)

**参加者** : 外来科 科長 Nguyen Thi Bich Ngoc  
外来科 看護師 Le My Dung  
国際協力局事務員 Pham Thuy Linh

**研修内容** : ①イーク表参道の見学  
②亀田総合病院の見学  
③バックマイ病院の図面をもとに健診フローおよび人員配置について検討

健診システムを見学中



### 成果

1. バックマイ健診センターにおける健診フローと人員配置の草案ができた。
2. 看護師が担うべき役割について、バックマイ病院の院内感染マニュアルやベトナムの法律によって規定があることが明らかになった。
3. 健診システムや遠隔診療の可能性について議論できた。

成果としましては、バックマイ病院健診センターのフローが概ね固まりました。各診察室にどの人員を何名配置するかという草案ができました。また、健診管理のITシステムについての検討や、インターネットを使った遠隔診療や日本の医師からアドバイスを受けられる仕組みについての提案もありました。

## この1年間の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 内視鏡検査の改善に向けたアクションプランが作成・実行され、以前よりも効果的な検査が実施される</li> <li>② 内視鏡検査時間が10%短縮し、有所見率が向上する</li> <li>③ 100%の参加者の知識向上、100%の参加者の健診業務への理解度の向上</li> <li>④ 健診業務フローを作成し、精査を行い、より効率的に1日50名の受入れが可能なフローを完成</li> </ul>	<p>バックマイ病院に健診センターが開設され</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 内視鏡検査への満足度が現状のそれより10%向上する</li> <li>② 新しい健診センターの業務フローが完成する</li> <li>③ 業務フローを活用し、受診者の受け入れが開始される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新健診センターにおいて、技術と業務フロー両面の継続的な改善により、受診者の満足度50%以上を常に維持する</li> <li>• 1日50名の健診受診者をスムーズに受け入れることができる</li> <li>• 業務フローが確立され、ITシステムによる業務効率化の準備を行う</li> <li>• 北部地方の各省病院(27病院)のうち50%以上の病院に対してネットワークを確立させる</li> </ul>
実施後の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 内視鏡検査の改善に向けたアクションプランが作成され、実行に向けて着手した(達成率50%)</li> <li>② 受入研修において、専門職に限らない適正なチーム体制について理解した。受入研修参加者7名(医師、看護師、事務職)</li> <li>③ 受入研修に対する参加者の理解度100%、満足度100%</li> <li>④ ベトナムにおける健診フローの作成に着手した</li> </ul>	<p>バックマイ病院に健診センターが未開業のため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① バックマイ病院が内視鏡検査向上のための看護師記録シートを自主的に作成した</li> <li>② 健診フロー案が作成された</li> <li>③ 人員計画案が作成された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 内視鏡検査において、今後開設される健診センターに限らず、バックマイ病院においても業務の見直しを図ることで合意した</li> <li>• 新健診センターに健診システムを導入することが決定された</li> </ul>

1年間の成果指標です。健診センターの工事が遅れているために達成できていない項目もいくつかあるのですが、研修参加者の理解度と満足度はともに100%となっています。細かい点についてはスライドをご覧くださいと思います。

### 各年度の成果

#### 昨年度の成果:

- ✓ トップ層が健診に対する認識を深めた
- ✓ バックマイ病院の自主性により図面が完成した

#### 昨年度の課題:

- ✓ 健康診断の各検査の技術レベルやサービスの提供方法
- ✓ 健康診断を実施する医師、看護師、事務職等の業務状況

#### 今年度の成果:

- ✓ 現場リーダー層が健診に対する理解を深めた
- ✓ 看護師業務、内視鏡検査のフローを見直した

### 今後の課題

- ✓ 現場スタッフの養成
- ✓ 実際に利用者を受入れ開始したときの落とし込み

昨年度からの成果です。昨年度はバックマイ病院のトップ層が健診についての理解を深め、先方の自主性によって図面が完成しました。しかし、課題としては、各検査の技術レベルやサービスの提供方法に改善の余地があること、また、医師、看護師、事務職のそれぞれの業務状況において課題が明らかになっていないことが挙げられました。今年度はそれに対して研修を実施し、現場リーダー層が健診に対する理解を深めました。また、看護師業務と内視鏡フローの見直しにも着手できました。今後は現場スタッフの養成や、接遇を向上し、受診者の満足度向上につなげること、そして実際に健診センターを開業して利用者の受け入れを開始してからも、フローの最適化に努めることが課題となっています。

## 現在までの相手国へのインパクト

### 健康向上における事業インパクト

- 前年度：事業で育成（研修を受けた）した保健医療従事者の延べ数＝109名  
本邦研修 9名、現地セミナー 100名
- 今年度：事業で育成（研修を受けた）した保健医療従事者の延べ数＝47名  
本邦研修 7名（11月4名＋1月3名）、  
現地セミナー 40名（6月13名＋9月11名＋12月16名）
- 現場のトップである外来科長・看護部長からの発信によって、研修を受けた者に限らず外来棟全体において業務改善に繋がる。

## 将来的な相手国へのインパクト

### ● バックマイ病院での裨益人口

- バックマイ病院外来の内視鏡受診者数1日約200件、**1年間約4万人**
- バックマイ病院に新設予定の健診センター受診者数1日約50件のうち、内視鏡検査の受診者は40件を想定しており**1年間1万2,000人**

### ● ベトナム北部他病院の技術向上

バックマイ病院は、ベトナム北部では他院に対して指導的役割も担うため、バックマイ病院での医療技術および管理体制、サービスの質の向上は、他院への波及効果が期待できる。

### ● ベトナム北部への健康診断の普及

将来的にバックマイ病院の健診施設が北部の基幹施設として他のモデルとなることが期待できる。  
また各施設とのネットワークを構築することで、ベトナムにおける健康診断の普及も期待できる。

現在までのベトナムへのインパクトです。昨年度から今年度まで延べ 156 名に対して研修を行いました。現場のトップである外来科長や看護部長からの発信によって、研修を受けた者に限らず、外来棟全体において業務改善に繋がったと考えております。

## 将来の事業計画

	目的	成果	課題	対象
昨年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の基礎的なマネジメントをトップ層に理解してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トップ層が健診に対する認識を深めた</li> <li>バックマイ病院の自主性により図面完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の各検査の技術レベルやサービスの提供方法</li> <li>健康診断を実施する医師、看護師、事務職等の業務状況</li> </ul>	<p>トップ</p>
今年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場実務管理者層に健診について理解してもらう</li> <li>医療サービス提供状況、各職種の役割分担の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場実務管理者層が健診に対する理解を深めた</li> <li>看護師業務、内視鏡検査のフロー見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場スタッフの養成</li> <li>実際に利用者を受入れ開始したときの落とし込み</li> </ul>	<p>外来部長、消化器科長、看護部長、医師など</p>
来年度（想定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>開業に向けた現場スタッフの養成</li> <li>健診の標準化とPDCA実施による業務最適化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開業前のシミュレーションから開業後を通じてフローを見直し、日本式健診を実現できるフローを確立する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師、看護師、事務職等の明確な役割分担によるチーム体制</li> <li>健診から治療へシームレスに対応可能な医療連携</li> </ul>	<p>医師 看護師 コンシェルジュ、運営スタッフ</p>

最後に、将来の事業計画です。来年度は現場の医師、看護師、事務職に向けて研修を行います。健診フローを標準化して、すべてのスタッフが効率的に動けること、さらに開業後もPDCAを回して業務を最適化していく必要があります。課題としては職種を越えたチーム体制を構築すること、健診から治療へのシームレスな対応と連携が考えられます。

この後は参考資料として、競合病院の視察結果やバックマイ病院における健診フローと人員配置の案を載せておりますので、後ほどご覧いただければと思います。これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

### (参考①) 競合病院の視察

- ハノイにあるセントポール病院、タインニャン病院(ともに公立)を見学し、各施設のハードとソフトについて、点数化により評価した。
- その結果、案内や受付はわかりやすいが、両院とも患者プライバシー配慮について改善の余地があることが分かった。

周辺病院の視察シート 2018/12/13

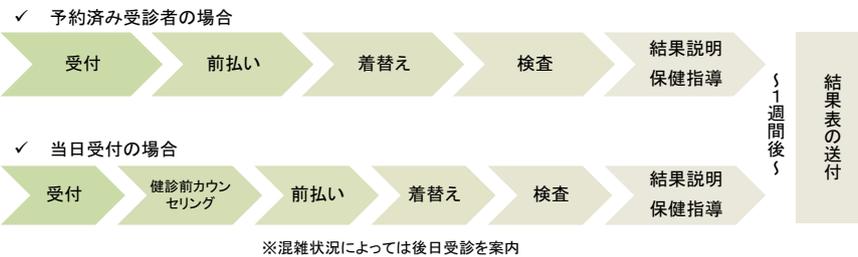
5とても良い、4まあ良い、3普通、2悪い、1とても悪い

	セントポール病院	タインニャン病院	
			病院
助線	裏動線の有無	1	4
	受付・案内がわかりやすいか	4	3
	患者目線の移動(移動効率)	3	4
	施設全体において	4	4
清潔さ	ゴミが落ちていないか、掃除されているか	4	4
	スタッフはマスク着用しているか	2	3
	トイレはきれいか	3	4
	入口の雰囲気	3	4
快適さ	受付・案内がわかりやすいか	4	4
	待合室の椅子が足りるのか、居心地良さ	3	4
	雑誌やテレビの設置状況	1	3
	待ち時間が表示されているか	3	2
安全性	駐車場からのアクセスはよいか	3	3
	診察室に勝手に入れないようにしているか	1	2
	患者のプライバシー保護(モニターに名前表示など)	1	2
ソフト	患者のマナー	3	4
	スタッフの接客態度	3	3
平均値		2.7	3.4



### (参考②) バックマイ病院健診センターにおける健診フロー案

- 日本の健診施設は事前予約制を取っているが、バックマイ病院では当日受付や、受診すべき健診メニューを医師や看護師と直接相談できる仕組み(カウンセリング)を導入したいという意見があった。
- 日本の健診施設では受診日から約3週間程度で結果を送付しているが、バックマイ病院では1週間以内に発送できるようにしたいとのこと。
- 受診後に受診者の要望に応じて、食事や生活習慣についての指導なども行いたいとのこと。



### (参考③) 人員配置

- 12月第3回専門家派遣の実施時、バックマイ病院外来科長から「初期から各診療室に医師・看護師を1名ずつ配置する」という意見があった。
- 1月本邦研修で、日本では裏動線を活用していること、繁閑に応じて配置人数を調整し効率的な運用を行っていることを理解し、人員配置について以下の2点に合意した。
  - ① 内視鏡検査、画像検査などにおいて、裏動線を活用し移動することで、医師の配置を合理化すること。
  - ② 開業初期は過剰な人員を配置せず、受診者の増加に応じて増員すること。

Room	Number	Who (How many)	What to do
(1) X-ray	2	放射線技師、医師1名(必要に応じて、初期は放射線技師のみ派遣も可)	放射線・撮影 受付・案内
(2) Hearting test	1	看護師1名	検査の実施
(3) Bone density	1	看護師1名	検査の実施
(4) Abdominal ultrasound & Echo	7	医師1名、看護師7名	医師：検査の実施と説明 看護師：データの入力
(5) Pulmonary Function	1	看護師1名	検査の実施
(6) Otorhinolaryngology	1	看護師1名	検査の実施
(7) Electro cardiogram	1	看護師1名	検査の実施
(8) Blood taking & Physical measurement	1	看護師1名	検査の実施
(9) Endoscopy	6	医師1名、看護師5名(受診者が少ない初期に、医師1名、看護師4名で実施可)	医師：検査の実施 看護師：医師の補助、患者の誘導、器具の洗浄
(10) Gynecology	3	医師1名、看護師2名	医師：検査の実施 看護師：医師の補助、患者の誘導、器具の洗浄
(11) Breast ultra sound	2	医師1名	医師：検査の実施と説明 看護師：データの入力
(12) Mammography	1	放射線技師	撮影・撮影
(13) Consultation	5	医師1名(受診者が少ない初期に2、3名)	受付・案内、検査の実施、検査内容の説明、結果説明

\*ホスピタル内医師および放射線技師の配置は各診療室の状況により、検査の開始時に各診療室に医師を1名ずつ配置する。看護師の配置は1日平均2名程度。